六甲山の崩積地植生に関する研究

本郷, 真
武田, 義明
松村, 俊和

(Citation)

神戸大学発達科学部研究紀要, 8(1):103-117

(Issue Date)

2000-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81000394>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000394>

六甲山の崩積地植生に関する研究

本郷 真*¹・武田義明*²・松村俊和*³

A Study of the Vegetation on Colluvial Slope
in Mts. Rokko, Hyogo Prefecture, Japan

Makoto HONGO, Yoshiaki TAKEDA, Toshikazu MATSUMURA

はじめに

1995年に兵庫県南部地震が六甲山系を直撃し、六甲山では多数の岩盤崩壊が起き多くの崩壊性裸地が形成された。また、過去には水害による崖崩れや土砂流出も数多く起きている。これは六甲山系において土壌母材である花崗岩類の風化が進んでいるからである。この土砂、礫の堆積した崩積地には、立地の安定性や遷移段階の違いによって様々な群落が成立している。しかし、六甲山系におけるこれらの植物群落と立地との関係は明らかになっていない。そこで本研究では、この六甲山系の崩積地の植生の実態と立地との関係を明らかにすることを目的として研究を行った。また、これらの関係を解明することで早期緑化にも貢献できるものと考えられる。

なお、本論に立ち入るにあたり、本研究に対し、懇切丁寧なご助言を頂いた姫路工業大学の服部保教授、里と水辺研究所の赤松弘治氏、浅見佳世氏、兵庫県立人と自然の博物館の石田宏明氏、ならびに現地調査に多大なご協力を頂いた神戸大学発達科学部植生学研究室、および神戸女学院大学人間環境科学部の皆様に厚くお礼申し上げます。

I. 調査地の概要

1) 調査地域

六甲山系は神戸市街の背後に屏風のように東西に連なる。六甲山系は神戸市須磨区付近で海上から姿を現し、東に徐々に高度を増して800m前後の平坦な山頂部を形成し、やがて宝塚・武庫川付近で高度を急に下げ地中に没する東西30km、南北6kmのややびつな形をした山地である。約100年をかけて緑豊かな山に復元された六甲山系はそのほとんどが代償植生で、大半がアカマツ林とコナラ林によって占められる。アカマツ林はほぼ六甲山系全域で広く見られるが、西六甲ではアカマツ枯れによる減少が著しい。アカマツ林はコナラ林と比べてやや乾燥地を好み、痩せ地や岩角地、また尾根筋などによく発達している。コナラ林はアカマツ林に比べてやや湿性地を好むので、地形的には谷筋を中心に分布している。コナラ林は六甲山の全域に分布するが西六甲や東灘区の中・古生層で多く見られる。以前は六甲山系の70~80%をアカマツ林が占めていたが現在はそのアカマツ林も徐々にコナラ林

*¹神戸大学大学院総合人間科学研究科

*²神戸大学発達科学部

*³兵庫県洲本農林水産事務所

(2000年4月28日 受付)
(2000年6月9日 受理)

に遷移してきている。

今回の調査は六甲山系において、西宮市北部より神戸市須磨区に至るまで、ほぼ全域(主に谷部の崩積地)を対象にしている。調査地点は図1に示す。なお、調査期間は1996年6月~11月であった。

2) 調査地の気候

今回の調査地点の標高は50~720mである。神戸海洋気象台(海拔58m)の観測(気象庁1958, 1959)によると、年間降水量は1,300mm、冬季降水量(12, 1, 2月)は135mmと少なく、年間平均気温は15.5℃と、温暖寡雨で特徴づけられる瀬戸内気候に属している。また、標高が高い六甲山測候観測所(865m)の観測(気象庁1958, 1959)では年間降水量は1,871mmと多く、年間平均気温も10.1℃と低くなっている。

また、調査地域の気候の特徴を示すため、神戸と六甲山の気候ダイアグラム(Walter et al. 1975)を描き示した(図2)。

図1. 調査地点図

ムクノキ-エノキ群集...○ チチブツツギ群集...□
 ホタンツル-ワツギ群集...▽ コアカン群集...◇
 オオバヤシヤブ群集...▲

図2. Walterの気候ダイアグラム

a. 標高 b. 年間平均気温 c. 年間降水量

II. 調査方法

調査方法は植物社会学的方法(Braun-Blanquet 1964, Mueller-Dombois & Ellenberg 1974, 中西ら1983)に基づいている。調査区の面積は3m²~400m²で、各群落、各調査地点によって異なる。また、階層を区分し、階層の高さおよび全植被度を測定した。ただし、階層の高さや数は調査地点により異なる。

次に、区分された階層ごとに出現種のリストを作成し、それぞれの種の被度・群度を測定した。種名および学名については、新日本植物誌顕花編改訂版(大井 1992)および新日本植物誌シダ編改訂増補版(中池 1992)に従った。なお、被度・群度の測定にはBraun-Blanquet (1964)の全推定法を用いた。

III. 結果および考察

1) 群落区分

得られた資料を基に植物社会学的方法に基づいて表操作を行い、同じような出現の仕方をする種群や似たような組成を持つスタンド群を見つけだし、次のように群落区分した。群落組成表はTable 1-1, 1-2に示し、Table 2に総合常在度表を示した。

- A. エノキ-ムクノキ群集
 - 1. ヤブソテツ下位単位

六甲山の崩積地植生に関する研究

- 2. クマノミズキ下位単位
- B. オオバヤシャブシ群落
 - 1. 典型下位単位
 - 2. ケヤマハンノキ下位単位
- C. ボタンヅルーウツギ群落
 - 1. 典型下位単位
 - 2. ジャケツイバラ下位単位
- D. チチブフジウツギ群落
- E. コアカソ群落

2) 群落各論

A. エノキームクノキ群集 *Aphanantho-Celtidetum japonicae* Ohno 1979

標徴種及び識別種:ムクノキ, エノキ, ネズミモチ, ベニシダ, ナガバジャノゲ, イヌビワ, テイカカズラ, アオキ, シロダモ, アラカシ, カゴノキ, オオバノイノモトソウ, ネザサ, ヤブニッケイ, イノデ, クマワラビ, サネカズラ, ヤブラン, ヤマイタチシダ, ヤマコウバシ, ヤブコウジ, トラノオシダ, ヤツデ, ハゼ, キツタ

本群落はムクノキ, エノキ, ネズミモチなどの種によって識別される。大野(1979)は西日本のヤブツバキクラス域の河畔林として, エノキ, ムクノキなどを標徴種および識別種とするエノキームクノキ群集を報告している。本群落もエノキ, ムクノキを識別種に持つことから本群集に同定した。大野(1979)は本群集の上級単位をエノキームクノキ群団, コナラーミズナラオーダー, ブナクラスに位置づけている。

本群集は, 六甲山系南側の布引閃緑花崗岩帯上に多く分布している。土壌母材である布引閃緑花崗岩は, 六甲花崗岩よりも石英の割合が少なく風化しやすい傾向にあり, 群落の立地はやや不安定である。また, 立地は透水性と通気性に優れて肥沃, 湿潤な状態にあった。本群集はさらに2つの下位単位に区分される。

A-1. ヤブソテツ下位単位 *Cyrtomium fortunei* subordinate unit

識別種:ヤブソテツ, ミズヒキ, オオイタチシダ, イタビカズラ, ナナメノキ

本下位単位は高木層にムクノキもしくはエノキが優占していることとヤブソテツ, ミズヒキなどによって特徴づけられる。群落構造は4~5層からなり, 高木層の高さは10~19m, 植被率は60~95%, 亜高木層の高さは8~15m, 植被率10~45%である。高木層にクマノミズキ, クスノキやハゼが混生する植分もある。第1低木層の高さは3~10m, 植被率20~60%, 第2低木層の高さ1.5~4m, 植被率5~80%である。ともにネズミモチ, ヤブニッケイ, ヤブツバキ, ヒサカキなどのヤブツバキクラスの常緑樹種やイロハモミジが優勢である。草本層は高さ, 0.3~1.3m, 植被率は3~40%でベニシダ, イノデなどの常緑のシダ植物が多く生育している。本下位単位は山系南側の布引閃緑花崗岩帯に多く広がる。

A-2. クマノミズキ下位単位 *Cornus brachypoda* subordinate unit

識別種:クマノミズキ, ムラサキシキブ, ケヤキ, アキニレ

本下位単位は高木層にクマノミズキあるいはケヤキが優占することにより特徴づけられる。階層は4~5層からなり, 高木層は高さ10~19m, 植被率45~90%, 亜高木層は高さ7~13m, 植被率は5~30%で, コナラ, イロハモミジ, ムクノキ, エノキなども混生する。第1低木層は高さ4~

9m, 植被率は5~90%, 第2低木層は高さ2~3m, 植被率5~60%で, ともにアオキ, アラカシなどのヤブツバキクラスの常緑樹種とムラサキシキブ, ヤマコウバシなどの夏緑樹種が混生する。草本層の高さは0.3~0.8m, 植被率は2~65%でありベニシダ, フジ, イタドリなどが生育する。

本下位単位は六甲山系では南側の布引閃緑花崗岩帯に分布し, 断層上に多い花崗岩質圧砕部に多く広がっている。ヤブソテツ下位単位よりも若干急傾斜な場所で, やや標高の高い場所に分布している。

B. オオバヤシャブシ群落 *Alnus sieboldiana* community

識別種:オオバヤシャブシ, クロモジ, ヤブムラサキ, リョウブ, キブシ, マルバアオダモ

本群落はオオバヤシャブシ, クロモジなどによって区分される。高木層もしくは第1低木層にオオバヤシャブシが優占し, コナラ, ノグルミなどが混生する植分もある。

本群落は六甲花崗岩帯に多く分布している。また, カバノキ科ハンノキ属のオオバヤシャブシ, ヒメヤシャブシは放線菌と共生し菌根を形成して, 花崗岩帯の尾根部にもよく生育するという特徴を持つ。そのことから, オオバヤシャブシは本来六甲山系に分布の無かった種であるが, 現在では砂防緑化のため多く植林されている。なお, 本群落はさらに2つの下位単位に区分される。

B-1. 典型下位単位 *Typicum subordinate unit*

典型下位単位はケヤマハンノキ下位単位に見られる識別種を欠くことにより区分される。階層構造は3~5層からなり, 高木層は高さ10~14m, 植被率は40~85%でありオオバヤシャブシが優占し, クマノミズキ, アカメガシワなどが混生する。第1低木層は高さ2.5~7m, 植被率10~70%, 第2低木層は高さ2~2.5m, 植被率10~40%で, リョウブ, ウツギ, キブシなどが生育し, 草本層は高さ0.5~0.8m, 植被率10~60%で, チヂミザサ, ヨシノアザミやつる植物のアケビ, ヤマノイモなどが混生する。

本下位単位は六甲山系南側に多く分布している。六甲花崗岩帯に多く立地場所は石礫, 砂礫が混じり, 透水性に優れ, 平均出現種数も多い。

B-2. ケヤマハンノキ下位単位 *Alnus hirsuta* subordinate unit

識別種:ケヤマハンノキ, アカマツ, ヒメヤシャブシ, タニウツギ

本下位単位はケヤマハンノキ, アカマツなどによって区分される。階層は高木層を欠くこともあり, 3もしくは4層からなる。高木層は高さ7~8m, 植被率50~60%, 第1低木層は高さ3~6m, 植被率25~95%で, 両方にオオバヤシャブシ, ヒメヤシャブシ, ケヤマハンノキが優占する先駆低木群落である。アカマツやリョウブが混生する林分もある。第2低木層は高さ1.5~3m, タニウツギ, ウツギ, キブシなどが混生する。草本層は高さ0.3~1m, 植被率15~55%で, ススキ, チヂミザサなどが生育する。本下位単位は, 六甲山系の北側にのみ分布し, 川沿いの低傾斜な礫地に多い。また大半が六甲花崗岩帯に広がっている。標高400m以上のやや高い所に分布しており, 六甲山系の中では比較的冷涼な場所に立地している。

C. ボタンヅル-ウツギ群落 *Clematis apiifolia-Deutzia crenata* community

識別種:ウツギ, アケビ, スイカズラ, ボタンヅル, クズ

本群落はボタンヅルとウツギを優占種としている林縁性低木-つる植物群落である。群落構成種は上記の優占種のほかに, スイカズラ, ミツバアケビなどのつる植物, ノイバラなどの低木類, チヂミザサ, イタドリがある。草本層にも低木層と同じフジ, アケビなどのつる植物やイタドリ

六甲山の崩積地植生に関する研究

が生育する。

本群落はボタンヅルやウツギが優占していることと、種組成が多数のつる植物によって特徴づけられることよりボタンヅル-ウツギ群落(村上 1983)と同等のものと思われる。上級単位はボタンヅル-モミジイチゴ群団、ノイバラクラスに位置づけされるものと考えられる。

本群落は六甲山系に広く分布し、地質などに依存しない。分布標高も165~720mと様々である。溪谷部の礫質地や崩壊地斜面、スギ植林の林縁部など、日当たりの良い所に転々と帯状に分布する。本群落はさらに2つの下位単位に区分される。

C-1. 典型下位単位 *Typicum subordinate unit*

本下位単位は、ジャケツイバラを欠くことにより区分される。高木層を欠き、階層は2もしくは3層構造からなり、低木層の高さは1.5~5mでクズ、ボタンヅル、フジ、アケビといったつる植物が全体を被う。草本層は高さ0.3~1m、植被率は1~70%である。調査地点は斜面下部に位置する崩壊地である。石礫が多数存在している。

C-2. ジャケツイバラ下位単位 *Caesalpinia japonica subordinate unit*

識別種:ジャケツイバラ

本下位単位はジャケツイバラの出現によって区分される。階層は2もしくは3層からなり、高木層を欠き、低木層は高さ2~3.5mであり、低木種のウツギ、イボタノキ、つる植物のジャケツイバラ、アケビ、フジなどが優占するマント群落である。低木層の植被率はほぼ100%に近い。草本層の植被率は平均約10%であり、アケビ、シロヨメナ、フジなどが低被度で生育する。

本下位単位は全ての調査地点が崩壊地の斜面中部の石礫地に分布していた。また、傾斜も急である。よって水分条件が他群落より悪く、平均出現種数が少ないのが特徴である。

D. チチブフジウツギ群落 *Buddleja davidii community*

識別種:チチブフジウツギ, オオアレチノギク

本群落はチチブフジウツギ, オオアレチノギクで区分される。高木層を欠き、階層は2もしくは3層からなる。群落高は2~5m、低木層は植被率50~70%でチチブフジウツギが優占し、草本層は高さ0.5~0.8m、植被率3~40%でヨモギ, ススキ, ヘクソカズラなどが生育する。またヨモギ, アカメガシワ, ヌルデ, ススキといった遷移初期段階で侵入する種が高頻度で出現する。

本群落は、堰堤沿いなどの流れが緩やかになる、傾斜が10度以下の所にパッチ状に分布する。その立地は、水の営力により運ばれた花崗岩などを母体とする風化碎屑物で、多くの石礫や砂礫を含み、透水性や通気性には優れるが貧栄養である。

E. コアカソ群落 *Boehmeria spicata community*

識別種:コアカソ

本群落は1層よりなる群落である。植分の高さは0.8~2mと低く、植被率は75%以上になり識別種であるコアカソが優占している。また、チヂミザサ, イタドリ, ハナタデ, ミズヒキ, ツユクサ, ヘクソカズラ, ヤマアジサイなどの種が草本層に生育している。

本群落の成立地はほとんど六甲花崗岩質であり、河川による浸食、堆積が活発に進行している所の礫質堆積物の上に成立し、不安定である。土壤の欠乏やその貧栄養性、重力による移動などの要因により、植物は一般に疎生し、群落高が低い。川沿いに帯状に分布することが多い。また、崖に沿って立地したり、気温の上がりにくいN~NE斜面に分布するなど、周囲の環境条件によ

り日照が少なく気温が上昇しにくいところが多い。このことより、本群落は六甲山系では比較的冷涼な場所に立地することがわかる。

3) 生活形組成

各群落の群落生態的特徴を見るために、それぞれの群落の生活形組成を百分率で図3に図示した。生活形は常緑高木、常緑低木、常緑つる、常緑草本、夏緑高木、夏緑低木、夏緑つる、夏緑草本、半常緑つると9つに区分した。

図3. 各群落の生活形スペクトル

- A. エノキムクノキ群集 D. チチブフジウツギ群落
 B. オオバヤシャブシ群落 E. コアカソ群落
 C. ボタンズルーウツギ群落

エノキムクノキ群集は、常緑種が53.8%と半分以上を占める。特に、ネズミモチ、アオキといった常緑低木種とベニシダ、イノデなどの常緑草本種の割合がそれぞれ19.2%、15.4%と高い。

オオバヤシャブシ群落は夏緑低木種が31.3%、夏緑草本種が25.0%を占める。また、オオバヤシャブシ、マルバアオダモ、リョウブなどの夏緑高木種の割合が16.7%あり、他群落と比べて高い。

ボタンズルーウツギ群落はボタンズル、アケビ、フジなどのつる植物の割合が26.9%と高いのが一番の特徴である。つる植物の大半が陽地性の夏緑草本種である。原(1985)によるとつる植物は年平均降水量が500mm以上の所に分布し、温暖で湿潤なほど多くの種が出現すると記している。本群落の分布は気温の上がりやすいS~SW斜面に多く分布しており、六甲山系の中でも比較的日当たりが良く温暖であることと、水分条件が良好なこと、そして立地が不安定なことから、高木種の侵入が難しく、つる植物の割合が高くなったと考えられる。また、夏緑草本種が30.8%、夏緑低木種が19.2%を占める。

チチブフジウツギ群落はオオアレチノギク、ヨモギ、ススキといった草本種の割合が67.7%と3分の2を占め、木本種の生育は少ない。これは群落の立地位置が貧栄養か、群落形成が行われて間もないかのどちらかの理由であろう。また、夏緑低木種が16.1%を占める。

コアカソ群落は常緑樹種が4.8%と少ない。これは、本群落が不安定立地上にあり、林床の光環境が悪いことから侵入が困難であると考えられる。また、高木種は全く生育していない。このことは、本群落上において河川の浸食・堆積作用、重力による移動が活発に進行しているため攪乱が高頻度で起きており、遷移の初期段階の群落であることだからであると考えられる。また、夏緑草本種が47.6%、夏緑低木種が38.1%を占める。

崩積地植生全体として、夏緑草本種の割合が高くなる傾向が認められた。崩積地が攪乱の多い立地

六甲山の崩積地植生に関する研究

にあり、崩積地全体の林床の光環境が良好であることからであると思われる。また、攪乱頻度が高くなるほど常緑種の生育が少なくなり、生活形組成の差異に影響を与えていた。

4) 種子散布型

種子散布は植物の新しい土地への侵入や、群落の形成、分布の拡大などに不可欠である。今回は、崩積地にどのように植物が侵入してきたかを推測するために、各群落の種子散布型スペクトルの比較を行った(図4)。なお、種子散布型は中西(1994)に基づいている。

図4. 各群落の種子散布型スペクトル

- A. エノキ・ムクノキ群集 D. チチブフジウツギ群落
 B. オオバヤシャブシ群落 E. コアカソ群落
 C. ボタンヅルーウツギ群落

エノキ・ムクノキ群集においては被食動物散布種が53.8%と半分以上を占める。被食動物散布種はムクノキ、エノキ、ネズミモチなどの木本種がほとんどである。これから崩壊地への侵入や群落形成に被食動物散布が重要であることがわかる。また、風散布種は被食動物散布種の半分の14種26.9%で、半数の7種がシダ植物であった。

オオバヤシャブシ群落では低木種のナガバモミジイチゴ、クロモジなどの被食動物散布種が42.6%を占め、風散布種の方が38.3%と少ない。しかし、オオバヤシャブシ、ケヤマハンノキなどの高木種が風散布種であることから、まず崩壊地に風散布種が侵入し、その後に被食動物散布種が侵入したと思われる。このことから本群落の成立には被食動物散布、風散布の両方が重要な役割を果たしている。

ボタンヅルーウツギ群落は被食動物散布種が42.3%、風散布種が30.8%、重力散布種が11.5%を占める。被食動物散布種にはアケビ、スイカズラ、イボタノキなどがあり、風散布種にはウツギ、ボタンヅル、イタドリなどがある。これら2つの散布型すべてが群落の形成には重要である。

チチブフジウツギ群落は風散布種が51.6%と大半を占める。風散布種にはチチブフジウツギ、オオアレチノギクなどの群落区分種やヨモギ、ススキといった調査区に高頻度で出現する種が含まれている。本群落の分布地は浸水、堆積などの攪乱が頻繁に起こり、裸地状態に近くなることもある。この際に広範囲に分布を広げることの可能な風散布種が侵入してきたものと思われる。また、チヂミザサ、アメリカセンダングサなどの付着動物散布種の割合が16.1%と他群落と比べて高いのも特徴である。

コアカソ群落はウツギ、イタドリなどの風散布種が38.1%、ヘクソカズラ、アケビなどの被食動物散布種が33.3%と多い。なお、重力散布種は全体の19.0%を占める。

これらをまとめると、エノキ・ムクノキ群集は鳥散布、チチブフジウツギ群落、コアカソ群落は風散布、オオバヤシャブシ群落、ボタンヅルーウツギ群落は被食動物散布と風散布の両方が群落形成に重要な役割を担っていることがわかった。また、攪乱頻度が高いほど風散布種の割合が高くなる傾向が認められた。

まとめ

六甲山系崩積地の植生を群落区分した結果、A. エノキームクノキ群集 (1. ヤブツバキ下位単位, 2. クマノミズキ下位単位), B. オオバヤシャブシ群落 (1. 典型下位単位, 2. ヒメヤシャブシ下位単位), C. ボタンヅルーウツギ群落 (1. 典型下位単位, 2. ジャケツイバラ下位単位), D. チチブフジウツギ群落, E. コアカソ群落の1群集4群落6下位単位が認められた。これらの群落成立には攪乱頻度が関係していて、攪乱頻度の高いものから低い順に並べると、コアカソ群落、チチブフジウツギ群落、ボタンヅルーウツギ群落、オオバヤシャブシ群落、エノキームクノキ群集となる。また、攪乱頻度が高いほど草本種と風散布種の割合が高くなる傾向が認められ、攪乱頻度が低いほど常緑種と被食動物散布種の割合が高くなる傾向が認められた(図5)。

図5. 各群落の特性

Summary

In 1995, a strong earthquake occurred in Southern-East Area of Hyogo, Japan. In Mt. Rokko, there were much of landslide caused by the earthquake and much of colluvial slope generated. The colluvial slope are needed to be covered safely by means of afforestation and so on. In this study, we investigated the vegetation on the colluvial slope at first. Secondly, we operated the data by means of phytosociological procedure on the table and clasified of the vegetation. As the result of the method, the vegetation was divided into one association, four communities and six subordinate units:

A. *Aphanantho-Celtidetum japonicae* Ohno 1979

This community is distributed on southern lower altitude area of Mts. Rokko. The distribution of this community is likely to be along gorges whose main parent material is Nunobiki granodiorite. The site keeps high moisture and has fertile soil. Main components of life-form and dispersal type in this community are evergreen species and endozoochory species.

1. *Cyrtomium foutunei* subordinate unit

This subordinate unit is distributed on slightly stable site rather than *Cornus brachypoda* subordinate unit.

2. *Cornus brachypoda* subordinate unit

This subordinate unit is distributed on unstable site rather than *Cyrtomium fortunei* subordinate unit. The distributed site is on fault and composed by mylonite.

B. *Alnus sieboldiana* community

This community is distributed mainly on unstable site composed by Rokko granite. Main components of life-form and dispersal type in community are summer-green species and anemochory species.

1. *Typicum* subordinate unit

This subordinate unit is distributed all of Mts. Rokko.

2. *Alnus hirsuta* subordinate unit

六甲山の崩積地植生に関する研究

This subordinate unit is distributed Northern part of Mts. Rokko.

C. *Clematis apiifolia*—*Deutzia crenata* community

This community is distributed mainly on forest edge. Main components of life-form and dispersal type are climbing plants and anemochory species.

1. Typicum subordinate unit

This subordinate unit is distributed on lower site of slope on gorge.

2. *Caesalpinia japonica* subordinate unit

This subordinate unit is distributed on middle site of slope on gorge.

D. *Buddleja davidii* community

This community is distributed on sediment affected by water. Main components of life-form and dispersal type in community are herb species and anemochory species.

E. *Boehmeria spicata* community

This community is distributed on the most unstable site composed by Rokko granite along a river. Main components of life-form and dispersal type in community are herb and summer-green species and anemochory species.

引用文献

- Braun-Blanquet, J. 1964. Pflanzensozioologie, 3. 865pp. Aufl. Springer Verlag, Wien.
- 原慶太郎. 1985. ツル植物の生態学的研究 I. 分布. 植物地理・分類研究, 33(2): 96-104.
- 吉良竜夫. 1948. 温量指数による垂直的な気候帯のわかちかたについて. 寒地農学, 2: 143-173.
- 気象庁編. 1958. 全国気温資料・月別累年平均値. 気象庁観測技術資料, 10: 116.
- 気象庁編. 1959. 全国降水量資料・月別累年平均値. 気象庁観測技術資料, 13: 117-118.
- 宮脇昭編. 1994. 日本植生便覧改訂新版. 872pp. 至文堂, 東京.
- Mueller-dombois, D. & Ellenberg, H. 1974. Aims and Method of Vegetation Ecology. John Wiley & Sons, New York.
- 村上雄秀. 1983. ボタンズルーウツギ群落. 日本植生誌 5, 近畿(宮脇昭編著): 273. 至文堂, 東京.
- 中池敏之. 1992. 新日本植物誌シダ編改訂増補版. 868pp. 至文堂, 東京.
- 中越信和. 1983. ケヤマハンノキオオバヤシャブシ群落. 日本植生誌 4, 中国(宮脇昭編著): 368-369. 至文堂, 東京.
- 中西弘樹. 1994. 種子は広がる. 256pp. 平凡社, 東京.
- 中西哲・大場達之・武田義明・服部保. 1983. 日本の植生図鑑 森林: 16-7, 保育社, 大阪.
- 大井次三郎. 1992. 新日本植物誌顕花編改訂版. 1716pp. 至文堂, 東京.
- 大野啓一. 1979. 西日本における沖積低地の河畔林に関する群落学的考察. 横浜植生学会報告, 16: 227-236.
- Raunkiaer, CH. 1934. The Life-forms of plant and statistical plant geography, Oxford.
- Walter, H., Harnickell & Mueller-Dombois, D. 1975. Climate-diagram Maps. Springer Verlag, New York.

六甲山の崩積地植生に関する研究

Table 1-2. Floristic composition of shrub vegetation on colluvial slope in Mts. Rokko

C. *Clematis apiifolia-Deutzia crenata* community
 1. Typicum ordinate unit
 2. *Caesalpinia japonica* subordinate unit
 D. *Buddleja shimidzuana* community
 E. *Boehmeria spicata* community

Relev. No.	C		D		E			
	1	2						
Date	961010	961010	961010	961010	961010	961010		
Altitude	510	510	510	510	510	510		
Exposition	S20W	S20W	S20W	S20W	S20W	S20W		
Inclination	4	5	4	5	4	5		
Quadrat size	3x3	3x3	3x3	3x3	3x3	3x3		
1st shrub layer Heihtg (m)	3	3	3	3	3	3		
1st shrub layer Total coverage (%)	90	95	90	95	90	95		
2nd shrub layer Heihtg (m)	1.5	1.3	1.5	1.3	1.5	1.3		
2nd shrub layer Total coverage (%)	12	60	12	60	12	60		
Herb layer Heihtg (m)	0.7	0.5	0.7	0.5	0.7	0.5		
Herb layer Total coverage (%)	45	5	45	5	45	5		
Number of species	29	27	29	27	29	27		
Differential species of <i>Clematis apiifolia-Deutzia crenata</i> community							Frequency	
<i>Deutzia crenata</i>	1	2	4	4	3	4	2	30
<i>Akebia quinata</i>	1	2	3	4	3	4	3	21
<i>Lonicera japonica</i>	1	2	3	4	3	4	3	16
<i>Pueraria lobata</i>	1	2	3	4	3	4	3	14
<i>Clematis apiifolia</i>	4	2	1	2	1	2	1	14
Differential species of <i>Buddleja shimidzuana</i> community							Frequency	
<i>Buddleja shimidzuana</i>	1	2	3	4	3	4	3	10
<i>Erigeron sumatransis</i>	1	2	3	4	3	4	3	3
Differential species of <i>Boehmeria spicata</i> community							Frequency	
<i>Boehmeria spicata</i>	1	2	3	4	3	4	3	22
Differential species of <i>Caesalpinia japonica</i> subordinate unit							Frequency	
<i>Caesalpinia japonica</i>	1	2	3	4	3	4	3	5
Companions							Frequency	
<i>Opilismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	+	+	+	+	+	+	+	28
<i>Polygonum cuspidatum</i>	2	2	1	1	2	1	1	27
<i>Paederia scandens</i> var. <i>mairei</i>	+	+	+	+	+	+	+	26
<i>Coccoloba orbiculata</i>	+	+	+	+	+	+	+	23
<i>Wisteria floribunda</i>	1	+	2	2	1	+	3	19
<i>Ligustrum obtusifolium</i>	4	2	1	1	+	+	+	17
<i>Polygonum filiforme</i>	2	+	+	+	+	+	+	17
<i>Dioscorea japonica</i>	1	1	+	+	+	+	+	15
<i>Rubus palmatus</i>	+	+	+	+	+	+	+	15
<i>Commelina communis</i>	+	+	+	+	+	+	+	13
<i>Cirsium nipponicum</i> var. <i>yoshinoi</i>	+	+	+	+	+	+	+	13
<i>Akebia trifoliata</i>	+	+	+	+	+	+	+	12
<i>Aster ageratoides</i> var. <i>harae</i> f. <i>leucanthus</i>	+	+	2	+	1	+	+	12
<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	+	+	2	+	+	+	+	11
<i>Rosa multiflora</i>	+	1	+	2	+	+	+	11
<i>Dioscorea tokoro</i>	+	1	+	+	+	+	+	11
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	2	1	1	+	2	+	3	11
<i>Camellia japonica</i>	1	2	+	+	+	+	+	10
<i>Dryopteris lacera</i>	+	+	+	+	+	+	+	9
<i>Eupatorium chinense</i> var. <i>simplicifolium</i>	+	+	+	+	+	+	+	9
<i>Calamagrostis arundinacea</i> var. <i>brachytricha</i>	+	+	+	+	+	+	+	8
<i>Acer palmatum</i>	+	1	1	+	+	+	2	8
<i>Rhus javanica</i>	+	+	+	+	+	+	+	7
<i>Artemisia princeps</i>	+	+	+	+	2	1	+	7
<i>Rosa paniculifera</i>	+	+	+	+	+	+	+	7
<i>Festuca parvigluma</i>	1	1	+	+	+	+	+	7
<i>Polygonum posumbu</i> var. <i>laxiflorum</i>	+	+	+	+	+	+	+	7
<i>Lindera umbellata</i>	+	+	+	+	1	+	+	6
<i>Viola grypoceras</i>	+	+	+	+	+	+	+	6
<i>Miscanthus sinensis</i>	+	+	1	+	+	1	+	6
<i>Erigeron annuus</i>	+	+	+	+	+	+	+	6
<i>Rubia akane</i>	+	+	+	+	+	+	+	6
<i>Dryopteris erythrosora</i>	+	+	2	+	+	+	+	5
<i>Eleagnus pungens</i>	+	+	1	+	2	+	+	5
<i>Clematis terniflora</i>	+	+	+	+	+	+	+	5
<i>Clerodendron trichotomum</i>	+	+	2	+	+	+	+	5
<i>Carex floribunda</i>	+	+	+	2	+	+	+	5
<i>Lysimachia japonica</i>	+	+	+	+	+	+	+	5
<i>Carpinus tschonoskii</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Carex sachalinensis</i> var. <i>alterniflora</i>	+	+	+	1	+	+	+	4
<i>Mollis japonicus</i>	+	+	+	+	+	2	+	4
<i>Smilax china</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Sasamorpha borealis</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Stachyurus praecox</i>	4	+	1	+	+	1	+	4
<i>Aralis elata</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Viburnum erosum</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Stephanandra incisa</i>	+	1	+	+	+	+	+	4
<i>Cyrtomium fortunei</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Plaioblastus shibuyanensis</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Achyrocline japonica</i>	+	3	+	1	+	+	+	4
<i>Boehmeria longispica</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Eunymus alatus</i> f. <i>ciliato-dentatus</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Neolitsea sericea</i>	+	+	1	+	+	+	+	4
<i>Rubus crataegifolius</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Polystichum polyblepharum</i>	+	+	+	+	+	+	+	4
<i>Rubus microphyllus</i>	+	+	+	+	+	+	+	3

六甲山の崩積地植生に関する研究

Table 2. Floristic synthesis table of the vegetation on colluvial slope in Mts. Rokko

A. *Aphanantho-Celtidetum japonicae* Ohno 1979
 1. *Cyrtomium fortunei* subordinate unit
 2. *Cornus brachypoda* subordinate unit
 B. *Alnus sieboldiana* community
 1. Typicum subordinate unit
 2. *Alnus hirsuta* subordinate unit
 C. *Clematis apiifolia-Deutzia crenata* community
 1. Typicum subordinate unit
 2. *Caesalpinia japonica* subordinate unit
 D. *Buddleja shimidzuana* community
 E. *Boehmeria spicata* community

No. of Relevé's	A		B		C		D	E
	1	2	1	2	1	2		
	21	20	7	7	21	4		
Character and differential species of <i>Aphanantho-Celtidetum japonicae</i> Ohno 1979								
<i>Aphananthe aspera</i>	ムクノキ	V 4 III 1	I +	I +	I +	.	.	.
<i>Dryopteris erythrosora</i>	ヘニシダ	V 1 V 2	I +	.	I +	1 +	.	.
<i>Ophiopogon ohwii</i>	ナガハシヤハヒナ	V 1 IV +	I +	.	I +	1 +	.	.
<i>Ligustrum japonicum</i>	ネスミモチ	V 1 V 1	II +	.	.	.	.	.
<i>Ficus erecta</i>	イシビワ	V 1 V 1	I +	.	.	.	.	.
<i>Trachelospermum asiaticum</i> var. <i>intermedium</i>	チイカスラ	V 1 IV 1	I +	I +	I +	.	.	.
<i>Neolitsea sericea</i>	シロダモ	III 1 IV +	III 1	.	I +	.	.	.
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	IV 1 IV 1	II +	.	I +	.	.	.
<i>Actinodaphne lancifolia</i>	カゴノキ	III 1 IV 1	I +	.	I +	.	.	.
<i>Dryopteris lacera</i>	クマワラビ	III + III +	II 1	.	II +	1 1	.	I +
<i>Polystichum polyblepharum</i>	イノデ	IV + III 1	I +	.	.	.	.	II 1
<i>Quercus glauca</i>	アラカシ	IV 1 IV 1	.	.	.	.	.	.
<i>Pteris cretica</i>	オオハノイノモトソウ	IV 1 II +	II 1	.	.	.	.	I 1
<i>Plelioblastus chino</i> var. <i>viridis</i>	ネザサ	III 1 III 1	I 1	.	.	.	.	.
<i>Cinnamomum japonicum</i>	ヤブニツケイ	IV 1 III +	I +	I +	.	.	.	.
<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	エノキ	III 2 II 1	I +	I +	I +	.	I +	.
<i>Kadsura japonica</i>	サネカスラ	III + III +	.	.	.	.	.	.
<i>Liriope platyphylla</i>	ヤブラン	III + II +	.	.	.	.	.	.
<i>Lindera glauca</i>	ヤマコウバン	II + III +	.	.	r +	.	.	.
<i>Dryopteris varia</i> var. <i>setosa</i>	ヤマイトチンダ	II + III +	.	.	.	.	.	.
<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ	II + II +	II +	.	.	.	.	.
<i>Asplenium incisum</i>	トラノオシダ	II + I +	.	.	r +	1 +	.	.
<i>Fatsia japonica</i>	ヤツデ	II + I +	.	.	.	.	.	.
<i>Rhus succedanea</i>	ハゼ	II 1 II 1	I 1	.	.	.	.	.
<i>Hedera rhombea</i>	キツタ	II + I +	.	.	.	1 +	.	.
Differential species of <i>Alnus sieboldiana</i> community								
<i>Alnus sieboldiana</i>	オオハヤシヤブシ	.	r 1	IV 3	V 3	.	I +	I +
<i>Lindera umbellata</i>	クロモジ	.	I +	III +	V +	I +	I +	I +
<i>Stachyurus praecox</i>	キブシ	r +	.	III 1	III 1	I +	I +	.
<i>Callicarpa mollis</i>	ヤブムラサキ	.	I +	III 1	III 1	r +	.	.
<i>Clethra barbinervis</i>	リュウブ	.	r +	III 2	III 1	r +	.	.
<i>Fraxinus sieboldiana</i>	マルハアオダモ	.	.	II +	III +	r +	I +	.
Differential species of <i>Clematis apiifolia-Deutzia crenata</i> community								
<i>Deutzia crenata</i>	ウツギ	r +	II +	IV 2	IV 2	V 3	4 2	II + II 1
<i>Akebia quinata</i>	アケビ	II +	II +	IV 1	.	IV 2	4 3	I + II 1
<i>Lonicera japonica</i>	スイカスラ	II +	II +	III +	.	III 1	2 +	I + I +
<i>Pueraria lobata</i>	ウス	r +	.	I 1	.	.	3 2	I +
<i>Clematis apiifolia</i>	ホトツグ	.	.	II +	.	.	1 +	I 1
Differential species of <i>Buddleja shimidzuana</i> community								
<i>Buddleja shimidzuana</i>	チヂブツウツギ	.	.	.	III +	.	1 +	V 4 I +
<i>Erigeron sumatrensis</i>	オオアレチノギク	.	.	.	II +	.	.	III +
Differential species of <i>Boehmeria spicata</i> community								
<i>Boehmeria spicata</i>	コアカリ	r +	r +	IV 1	II +	II +	2 +	III 1 V 3
Differential species of <i>Cyrtomium fortunei</i> subordinate unit								
<i>Polygonum filiforme</i>	ミスヒキ	III +	I +	III 1	.	III 1	.	II + II 1
<i>Cyrtomium fortunei</i>	ヤブソテツ	V +	II +	.	.	r +	1 +	I +
<i>Dryopteris varia</i> var. <i>hikonensis</i>	オオイトチンダ	IV +	r +	I +	.	.	.	.
<i>Ficus sarmentosa</i> var. <i>nipponica</i>	イタビカスラ	II +	r +	.	.	.	.	.
<i>Ilex chinensis</i>	ナメキ	II +	.	.	.	.	.	.
Differential species of <i>Cornus brachypoda</i> subordinate unit								
<i>Cornus brachypoda</i>	クマミズキ	III 1	V 3	II 2	I +	r +	.	.
<i>Callicarpa japonica</i>	ムラサキシキブ	I +	III 1	III 1	I +	r +	.	.
<i>Zelkova serrata</i>	ケヤキ	.	I 2	.	.	r +	.	.
<i>Ulmus parvifolia</i>	アキニレ	.	I 1	.	.	.	.	.
Differential species of <i>Alnus hirsuta</i> subordinate unit								
<i>Alnus hirsuta</i>	ケヤマハンノキ	.	.	.	V 2	.	.	.
<i>Pinus densiflora</i>	アカマツ	.	.	.	IV 1	.	.	II +
<i>Alnus pendula</i>	ヒメヤシヤブシ	.	.	.	IV 1	.	.	.
<i>Weigela hortensis</i>	タニウツギ	.	.	.	III 1	.	.	I 1
Differential species of <i>Caesalpinia japonica</i> subordinate unit								
<i>Caesalpinia japonica</i>	ジャケツイバラ	.	.	.	.	.	4 2	I +
Companions								
<i>Opismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	チヂミササ	IV +	III +	V 1	V +	IV 1	2 1	IV 1 IV 1
<i>Polygonum cuspidatum</i>	イトリ	III +	III +	V 1	IV +	IV 1	1 1	III + IV 1
<i>Wisteria floribunda</i>	フジ	V 1	IV 1	III 1	I +	III 1	4 2	II + I +
<i>Cocculus orbiculatus</i>	アオツグラフジ	III +	II +	III +	III +	IV 1	4 1	II + I +
<i>Paederia scandens</i> var. <i>mairei</i>	ヘクサカスラ	I +	I +	III +	IV +	IV +	2 +	IV 1 III 1
<i>Camellia japonica</i>	ヤブツバキ	III 1	IV 2	IV 1	II +	II 1	1 +	I + I +
<i>Akebia trifoliata</i>	ミツハアケビ	II +	III +	V +	V +	III +	.	I + I +
<i>Elaeagnus pungens</i>	ナツシロクミ	III 1	III +	III +	I +	I 1	1 +	.
<i>Eurya japonica</i>	ヒガカキ	III 1	IV 1	II +	III +	.	.	I +
<i>Ligustrum obtusifolium</i>	イボタノキ	I +	I +	III 1	.	III 1	3 1	I + II +
<i>Rubus palmatus</i>	イナバモミシイチゴ	r +	I +	IV 1	IV 1	III +	1 +	II 1
<i>Acer palmatum</i>	イロハモミジ	III 1	II 1	II 1	.	II 1	1 +	I +
<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	イヌカヤ	I +	II +	III 1	.	II +	3 1	I +

Omitted